

広報 ふたば

双葉郡小学校長会
第111号
者長 任 会 長
行 貴 長 一 郎
学 校 長 晋
小 学 校 堀 本

|| 双葉郡小学校長会 副会長あいさつ ||

四つの構想をもとに魅力あふれる学校づくりを目指して

双葉郡小学校長会副会長

大熊町立熊町・大野小学校長

阿部 裕美



各学
校
とも、新
型コロ
ナ
ウイル
ス感
染防止
へ向
け

て細心の注意を払った対応が求められており、一刻も早くこのような状況が終息することを祈るばかりである。

さて、大熊町の学校は現在も会津若松市で教育活動を行っている。そこでその地のよさを有効に活用しようとする。会津と言えば自然と歴史、伝統のあるまちである。日新館、会津村、会津本郷焼、会津若松城、磐梯山、猪苗代湖、尾瀬、赤べこ、起き上がり小法師、そば打ち、会津塗や会津木綿など豊かな体験ができ、授業などで活用できる素材がたくさんある。さらにこの地域のよさを生かし児童

の実態を踏まえ、今年度本校では、次の四つの構想を掲げ教育活動をスタートした。

一つ目は、読書の町おこま構想である。

大熊町はこれまで読書の町として力を入れ取り組んできた。読書をするにより、子どもたちはこれまでの見方や考え方が変化し、創造力が高まり、視野が広がってきている。現在は調べる学習への取組でその成果を表している。さらに一歩進み、

今後は自分たちで本を作り出すことを目指している。本が生まれる町、本が生まれる学校への歩みである。本作りにより、学校での子どもたちの様子を発信することができ、また画家や編集長、写真家、カメラマン、デザイナーなどの専門家との交流をおし本の制作過程を学べ、作品を成果として残すことがで

きる。まさに、本による本当の学習の場が確保できると考える。二つ目は、よさを生かした体験重視構想である。

教職員は多彩な趣味を持つ副職人でもある。芸術家、大工、園芸家、スポーツマン、音楽家、ICTの専門家、書道家、華道家など素晴らしい得意分野を持っている。校長として、学校の監督役として、このすばらしい教職員をいかに有効活用していくべきか。それが特色ある学校、また魅力ある学校づくりにつながるものであると考える。会津の地域のよさも十分活用し、体験重視の活動を取り入れていきたいと考える。

三つ目は、熊ちゃんバンド構想である。本校の子どもたちは、歌を歌ったり、演奏をしたり、踊ったりすることが大好きである。それならば、音楽を学校の活動の中に取り入れたいと心が動いた。その時限りの成果発表ではなく、年間を通して工夫して複数回活用できるものが望ましい。例えば、運動会の華と言えれば、運動会を思い浮かべる。本校の児童数は少ないが、何とか運動会で鼓笛ができないだろうか。運動会での演奏に工夫を加え、学習発表会でも活用できないか。交流時の歓迎セレモニーや感謝の会な

でも「熊ちゃんバンド」として活用することもできるのでないだろうか。震災前は、鼓笛から、運動会の他に、交通安全パレードや十日市、えびす講市でのパレードを思い出す。また、音楽の専門家の活用を図り、専門家から多くの指導方法を学び、豊かな教育活動に努めていきたいと考える。

四つ目は、体育館ジム・トレーニング構想である。何をすることも健康が第一。それならば、運動をしたい時にいつでもできる体育館ジム・トレーニング構想。人数が少ないため準備や片付けの時間を短縮し、一人でも運動ができる理想の体育館をイメージする。テニスや卓球の壁打ち、ボール当て、縄跳び、フラフープ、ボルダリング、吹矢、平均台に腹筋運動、バドミントンやバスケットボールなど自由に運動することができ、最適な空間を確保し、楽しく日常的に体力向上に努めたいと考える。

以上の四つの構想を具体的に実践しながら、子どもたちが楽しい学校生活を送れ、笑顔があふれ、日々一歩一歩着実に成長することができるよう、あせらず、無理せず、信念を持ち、魅力あふれる学校経営を心がけていきたい。

各校の今年度の活動より

津島小 「博物館看板披露【運動会】」



双葉南・北小



「梅檀祭」

なみえ創成小



「初めての持久走記録会」

葛尾小



「スクールフェスタ」

熊町小・大野小



「熊ちゃんバンド鼓笛演奏」

富岡一・二小 (三春校)



「児童職員で創る学習発表会」

富岡一・二小 (富岡校)



「記念すべき第一回永桜祭」

川内小



「稲刈り」

檜葉南・北小



「運動会」

広野小



「青空にエール」



双葉郡小学校長会は「チーム校長会」として全会員が協力し、充実した活動をしています。

◎7月10日 小中学校長連絡協議会研修会

「未来の教室キヤラバン」をふたば 講師 ○経済産業省 浅野 大介 様 ○文部科学省 田中 義恭 様

本郡においては、被災・避難による児童数減少に伴い、学校の小規模化が進み、また、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための臨時休業等で各校ではオンラインによる学習が試みられた。このような現状の中、ICT教育を推進させ、未来の教室について研修を深め、個別最適化された教育を持続的に実現させることは、双葉地区の教育復興につながるものになると考えられる。 学びのSTEAM化(プロジェクト化)と個別最適化、ICTを効果的に活用した教育の在り方等についてご講演いただいた。

◎10月29・30日

東京電力福島第一原子力発電所・原子力災害伝承館等視察及び懇談会

福島県小学校長会では、全国連合小学校長会及び東北連合小学校長会の協力を得て、視察・懇談会を行った。双葉郡小学校長会も参加させていただき、双葉郡の現状や課題等について話し合いを深めることができた。実際に視察等をしていただいたため、双葉郡の現状を詳しくお伝えすることができ、有意義な時間を過ごすことができた。



◎11月18日

南会津支会・双葉支会との懇談会

昨年度、南会津支会では富岡第一小学校の視察を行った。今年度も相双地区の視察を検討されていたが、コロナ禍のため視察は中止となり、リモート会議を実施し、双葉郡の現状と課題について共有した。オンライン上ではあったが、南会津支会の多くの先生方と意見を交換することができ、貴重な会となった。

双葉郡教育復興ビジョン推進への取組

東日本大震災及び原子力発電所事故により、ふるさとを離れて教育活動を展開してきた双葉郡の教育。多くの支援を受けながら、子どもたちの輝く笑顔のため、教育の復興を目指している。

ふるさと創造学サミット

◎12月5日(土) 主体性・協働性・創造性を伸ばし、自ら未来を切り拓く力を育むことを目指し、双葉郡の各小中高校では、『ふるさと創造学』に取り組んでいる。「震災で子どもたちが得た経験を、生きる力に」との思いで、二〇一四年から始まったふるさと創造学サミットであるが、今年度はオンラインでの開催となった。

ふたば生徒会連合司会のオープニングセレモニーの後、7会場に分かれセッションを行い、それぞれの学校のテーマに応じて調べた内容等を発表した。昨年度までも参加者との直接対話の時間を大切にしていたが、今年度オンラインの中でも双方で質問や感想を述べ合い、有意義な時間を過ごすことができた。また、全体企画では、「ミライ・ふたば」十年後の町・村・学校・自分を想像してみよう! と、ふるさとへの考えや思いを自由に

ふたば 十年後の町・村・学校・自分を想像してみよう! と、ふるさとへの考えや思いを自由に



オンラインの様子

想像し、新聞記事にまとめ、グループ内で共有をすることができた。オンラインでの開催であったが、双葉郡の子どもたちが、「伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び」のスローガンの通り、双葉郡の子どもたちがふるさとについて考え、つながり、学ぶことができた一日であった。

【各校の発表テーマ】

- 津島小：二本松校での「ふるさとみえ科」10年間の総まとめ
○なみえ創成小：浪江町の新たな一歩～漁業の復興を通して～
○川内小：希望の実が誕生！復興する川内村！
○葛尾小：葛尾村の語り部になろう～葛尾村の過去・現在・未来～
○双葉南・北小：新しい双葉町を盛り上げよう！！
○熊町・大野小学校：大熊町のよさを実感し、未来をデザインしよう
○富岡第一・第二小三春校：思いをみんなに届けよう～三春校の学び～
○富岡第一・第二小富岡校：とみおか小中学校 みんなで作ろう おもいでのご郷に かがやく未来を
○榎葉南・北小：ひらこう、榎葉の未来！！
○広野小：いいところ いっぱい 広野町！

二 編集後記

今年度は各学校とも新型コロナウイルス感染症対策に悩まされながらの毎日でした。感染拡大が心配な日々が続きますが、コロナウイルスの収束も含め、子供たちの今・そして未来が平和で幸せな日々となることを願うばかりです。広報「ふたば」も多くの方々の助けにより、発行することができました。ご寄稿いただきました皆様、心より感謝申し上げます。